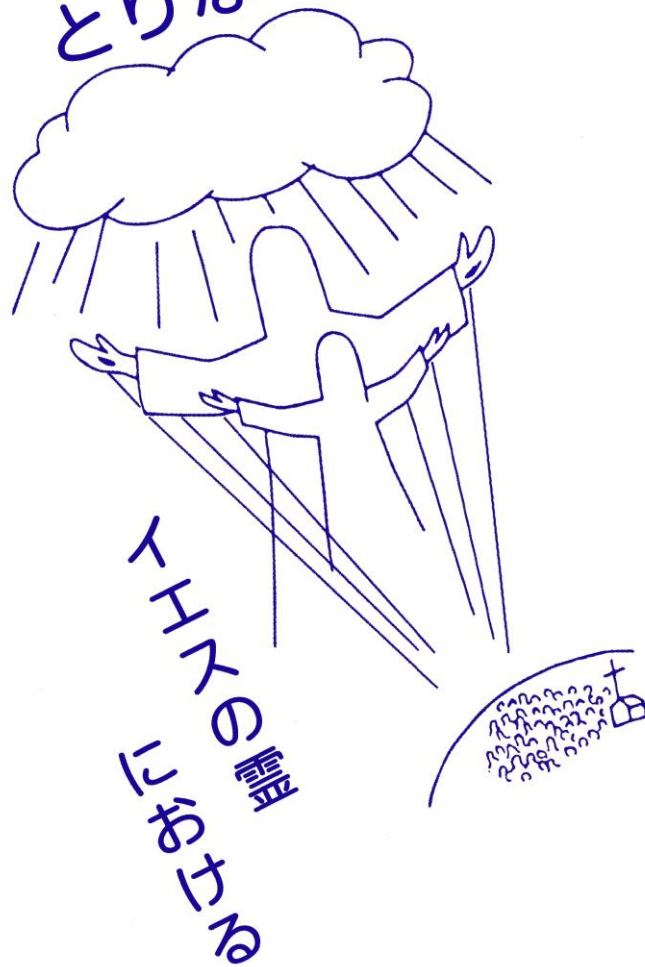


新しい聖霊降臨のための
新しいとりなし...
とりなし



新しい執り成しの集いの紹介

シスター ステファン著

はじめの祈り

十 父と子と聖霊の御名によって。アーメン。

父よ、イエスの力ある御名によってわたしたちがここに集う特別な御恵みを感謝いたします。

聖霊よ、いと高き方の知恵と共に来てください。イエスの霊における新しいとりなしを、わたしたちが深く理解し体験できるよう助けてください。そうして「天におられる父よ、御国が来ますように、御心が天に行われるように地にも行われますように。」と、主イエスと共にわたしたちが祈ることができますように。

あなたが行われた全てのことのゆえに、今なさっておられる全てのことのゆえに、これから行われる全てのことのゆえに、すべての賛美と栄誉と栄光をあなたに御捧げすることを約束いたします。

この夜、共にわたしたちが祈るとき、
栄光は父と子と聖霊に、始めのように今もいつも世々に、アーメン。
栄光は父と子と聖霊に、始めのように今もいつも世々に、アーメン。
栄光は父と子と聖霊に、始めのように今もいつも世々に、
アーメン。

十 父と子と聖霊の御名によって。アーメン。

NIHIL OBSTAT AND IMPRIMATUR:

鹿児島司教 フランシスコ・ザベリオ 中野裕明 認可

2020

© 2021

出版および印刷者：：燃える柴の共同体 (FBB)

神に特別の感謝を捧げます。わたしたちの父、わたしたちの主イエス・キリスト、そしてわたしたちの最愛の聖霊に！

大きな祈りによって支えてくださったF B Bのとりなし者
すべての方に感謝を捧げます。彼らの編集に関する専門知識
に助けられ、わたしはこの小さな本を書くことができました。
神が皆さまを豊かに祝福してくださいように！神に栄光！

(聖書は「New Jerusalem Bible」とオンラインの翻訳による
「Bible Gateway」から引用しました。)

「燃える柴共同体 (FBB)」の書面による許可なくして、
この文書のいかなる部分も複写・複製することはできません。

FBB, P.O. BOX 85855, Westland, Michigan, 48185 USA

(この教えは2019年にミシガン州デトロイト
で新しいとりなし者に与えられました。)

目 次

はじめの祈り	3
プロローグ	6
I. 導入	7
A. 新しいとりなしとは何か？	7
B. 新しい考え方	7
C. 神と共に働く	8
D. 神の考え方	8
II. 新しいとりなしの祈り方	8
A. イエス	8
B. 聖霊	9
・新しい方向	10
・聖霊は祈り方を知っておられる	10
・二つの質問	11
C. 結びのとりなしの祈り	11
D. すべての栄光を神へ	12
III. 最終的なまとめ	12
補遺 A：聖書概説	15
補遺 B：奇跡の祈り	16
補遺 C：赦しの祈り	18

プロローグ

数年前、シスターステファン・クルハンがわたしを訪ねてくださり、「燃える柴共同体カトリック・カリスマ宣教とりなし者」の働きについて話を聞かせていただきました。その時、彼女の言うことに注意深く耳を傾けてから、わたしは次のように答えました。

シスター、とりなしは教会の本質そのものですよ。教会はキリストであり、キリストは昨日も、今日も、永遠にとりなし者です。わたしたちには、この方において他にわたしたちを御父と和解させてくださる救い主はいないのです。この方だけが、神ご自身の栄光輝く御座において、わたしたちのために生きてとりなしをしてくださり、この方のみが、御父からわたしたちに聖霊、新しい命の霊を与えてくださるのです。従って、教会の中でとりなしについて話すことは、キリストの体としての教会、いや、それ以上に、キリストそのものである教会の本質が何であるかについて話すことになるのです。また、そのことは主ご自身を歴史と世界の中に現存させることになるのです（2コリント5:18, 19；ロマ5:10；コロサイ1:20-21）。

ここで白状しなければなりません、わたしは、彼女とのこの会話をとおして、とりなしの祈りが、すべての国、すべての時代の人びとを救う教会の使命を成し遂げるために、なくてはならない条件であるということを、よりはっきりと理解するようになったのです。

燃える柴共同体カトリック・カリスマ宣教とりなし者」の働きは、教会のはじめから認識されていたことで、教会の使命を効果的に果たすために聖霊から送られる賜物の存在と働きがあるという事実を物語っています。「燃える柴共同体カトリック・カリスマ宣教とりなし者」は、共同体やグループにおいて、カトリック的、使徒的一致のうちに、互いに愛の絆に結ばれて実践されてきたとりなしを永続的な祈りに変えるよう努力しているのです。とりなしの祈りのカリスマは、神の愛の炎によって養われた祈りの生活の交わりの中で現れるのです。

わたしの意見では、「燃える柴共同体カトリック・カリスマ宣教とりなし者」の働きは、教会の神秘的な体験に新しい何かを加えているのではないかと思うのです。現代において、それは、教会の中に永続的に働いている聖霊降臨を、現代により一層はっきりと現している一つです。それは、教会の中でとりなしの祈りの宣教する力と聖化する力を自覚させ、新たにしようとする風、火、ゆさぶりのような力です。

＋ フランシスコ　マリア　アグイレラ　ゴンザレス
メキシコの元補佐司教
メキシコ、D.F.　June 29, 2001

1. 導 入

現代では、聖霊は教会において素晴らしい新しいことをしておられます。わたしたちは、わたしたちの中で特に新しい福音宣教の分野で神の栄光の新しい働きを耳にし、体験しています。神に栄光！神はまた新しいとりなしをわたしたちに与えてくださいました。今日、わたしたちはイエスの霊における新しいとりなしについて話したいと思います。

A. 新しいとりなしとは何か？

個人的には、わたしたちは皆いろいろな方法で祈ります。皆さんのうちのどなたかは、さまざまな種類の祈りの集いや共同の礼拝に行ったことがあるかもしれません。それでは、「新しいとりなし」とは何でしょうか？

B. 新しい考え方

最初に、新しいとりなしの焦点、あるいは目的は、とりなしです。わたしたちが主のもとに行き祈るとき、多くの場合、神の愛と祝福を受けることを望みます。そしてわたしたちは皆、これを必要としているのです。そうですね？

けれども、とりなしの祈りで主のもとへ行く時、わたしたちは、自分自身のために祝福を受けに行くのではありません。わたしたちは、神を祝福し、人々を祝福するために行くのです。それで、とりなしの祈りに入るときには、わたしたちの考え方をわたしたち自身から、神と神の民へと変えるよう、聖霊がわたしたちを助けてくださるよう願いましょう。

C. 神と共に働く

とりなしの祈りをするときに、覚えておくべき第二のことは、わたしたちは神と共に働いているということです！アレルヤ！それでは、それは何を意味するのでしょうか？

神には限界がありません。神は制限されることがありません！そうですね？大天使ガブリエルがお告げの時にわたしたちの御母マリアに言ったように、「神にはできないことは何一つない」（ルカ 1:37）

時にはわたしたちは奇跡が必要です。けれども神の奇跡を信じるのがわたしたちにとって難しいことがあります。特に、わたしたちが奇跡を見たことがない場合は困難です。そこでわたしはあなた方にお勧めします。あなた方がとりなしの祈りをする時には、

自分自身の限界のある体験を見ない
でください。神とはどなたであるか、そして神にとって何が可能であるかを見てください。アレルヤ！

D. 神の考え方

わたしたちが神と共に働くとき、神がどのようにお考えになるかということ少し理解することは大切です。多くの方は、祈りのうちに神のもとへ行きますが、神のもとへやってきては、すべての問題を何度も何度も何度も神に話すのです。そうして、そのあとにすべての答えを神に言うのです！これはわたしが防御的な祈りと呼ぶものです。残念ですが、今日、わたしはあなた方に言わなければなりません。神は防御的ではありません。神は異なったレベルで生きて、働かれます。

更に、祈りのうちに神のもとへ行く時に、神がすべき事を神に語り始める人たちがいます。彼らは聖書のある箇所を引用することさえして、神に言います。「神よ、あなたはちょうどこの箇所でこう言いましたよ。あなたは御自分の言葉で約束したんですよ。だからわたしはイエスの御名によってそれを要求します。」そして彼らは要求し、要求し、要求し続けます。わたしはそれを攻撃的な祈と呼んでいます。残念ですが、今日、わたしはあなた方に言わなければなりません。神は攻撃的ではありません。神は全く異なるレベルで生きて働かれるのです。

神は創造的です。神は常に何か**新しい**事をしておられます。ですから、わたしたちがとりなしの祈りのうちに神のもとへ行くとき、わたしたちは自分が見、あるいは期待するものからわたしたちの焦点をそらす必要があります。わたしたちは自分の思いと心を開き、神が今日行なおうと望まれる**新しい**ことを探し始める必要があるのです。聖霊、来てください！

Ⅱ. 新しいとりなしの祈り方

聖霊は新しいとりなしの祈り方の特別な方法をわたしたちに教えてくださいました。これは、イエスと聖霊という、二つのポイントをもった実地的な方法です。わたしたちは、新しいとりなしにおいてこの方法を使うです：イエスと聖霊。この新しい方法とは何でしょうか？どのように行うのですか？最初のポイントであるイエスを見てみましょう。

A. イエス

ある日弟子たちはイエスに「主よ、わたしたちに祈り方を教えてください」と願いました。主は言われました。

「祈る時には、こう言いなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が聖とされますように、御国が来ますように、御心が天に行われるとおりに、地にも行われますように。わたしたちの日毎の糧を今日もお与えください。わたしたちの罪をお赦しください。わたしたちも人を赦します。わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください。アーメン』」（ルカ11:1-2；マタ6:9-13）

これはたいへん美しい強力な祈りです。そして、わたしたちは、この祈りをたくさん祈ります。そうですね？しかしながら、これは、単なる祈りではなく、弟子たちの「どのように祈るか？」という問いに対する答えでもあるのです。ヨハネ 12:49 で、イエスは言われました。「わたしは、父から聞いたことだけを語っているのである」と。イエスが主の祈りを祈ったとき、御父に対する神の子として祈るばかりでなく、聖霊が導くままに、イエスは祈っていたのです。ですから「主の祈り」は力強い祈りであるばかりでなく、わたしたちが祈るとき従うべきステップに対する聖霊からの啓示でもあるのです。

それで、イエスはどのように始めたのでしょうか？「天におられるわたしたちの父よ。」イエスが何をなさっているかわかりますか？イエスは神を第一に置いているのです。問題を第一に置いているわけではありません。これは大変大切なことです。人が神のもとへ行くとき、しばしばすることですが、自分の問題リストを差し出すのです。こんにちとは挨拶もしません。実際そうではないですか？そういうわけで、イエスはわたしたちが祈る時の新しい順番を教えてくださいました。神を第一に置きなさい、問題を第一に置くではありません！

どのように神を第一に置くのでしょうか？イエスは主の祈りを続けられます。「天におられるわたしたちの父よ、御名が聖とされますように。」イエスは神を名前で呼びます。それから、神を賛美し礼拝し始めるのです。洗礼によって主イエス・キリストの勝利の死と復活に入れられ、わたしたちは神の子とされたのです。それで、わた

したちは神を「わたしたちの父よ」と名前で呼ぶことができるのです。(ロマ8:15) わたしたちが神を名前で呼ぶとき、祈る時に神を第一に置くのです。それから、わたしたちは賛美と礼拝によって第一の方として神に仕えるのです。

詩編 22:3 で、主は民の賛美の中に住まわれると約束されます。アレルヤ！それがどういう意味かご存知ですか？わたしたちが主を賛美するときはいつでも、主は来られ、そこに現存していることを明らかにされるです。アレルヤ！そして、わたしたちがとりなしのうちに主を賛美するとき、主はわたしたちが祈っている人々のところへ親しく来てくださるのです。それこそが、わたしたちが祈っている人たちの必要なことではないでしょうか？わたしたちは人々のために多くのことを祈ります。そうではないですか？けれども要するに誰もがイエスを必要としているのです。そうですね？ですからわたしたちが主を賛美しているとき、わたしたちはイエスをあらゆる状況の中へと招いているのです。あらゆる人の人生へ。そしてイエスが来られるとき、イエスはあらゆるものを携えて天から来てくださいます。アレルヤ！神に賛美！

B. 聖霊

祈り方についての第二のポイントは聖霊です。

・新しい方向

イエスは「天におられる」を祈られたとき、次にイエスが言われたことは「御国が来ますように、御心が天に行われる通り、地にも行われますように」でした。

ここでイエスは何を語られているのでしょうか？イエスはどのように祈っているのでしょうか？イエスは**天を地へもたらそうと**祈っておられるのです。これは祈りおける**新しい方向**を明らかにするものです。

わたしたちの多くは、通常祈るとき何をしようとするのでしょうか？わたしたちはどれほど頻繁に神に何かを解決してもらおうとすることでしょうか？どれほど地を天に上げようとするのでしょうか？川を上流に向かって泳ごうとしたことがありますか？ただ疲れるだけです。そうでしょうか？それと同じことが祈りにおいても起こるのです。イエスは天を地にもたらそうとなさいますが、わたしたちは地を天に上げようとして上流に向かって泳ごうとしているのです。そうしてただ疲れてしまいます。

主の祈りの中で、主イエスは、わたしたちがまず天に足を踏み入れるように招いておられます。それからイエスと共に天を地へもたらすのです。アレルヤ。そのように、これは、わたしたちが新しいとりなしにおいて祈るために、神が教えておられる**新しい方向**です。天から地へと向かう方向です。

・聖霊は祈り方を知っておられる

どうしたらこのことができるのでしょうか？どのようにしてわたしたちは天に入るのでしょうか？実際のところ、これをどのように行うのか、わたしたちは知りません。わたしたちは自分だけでは天に入ることにはできません。聖書の中で聖パウロはローマ人への手紙の中でこの点について言及しています。「わたしたちはどのように祈るかを知りません。」世界中の誰もがこの問題を抱えています。誰も正しく祈る方法を知りません。けれども聖パウロは次の節で続けて言います。「聖霊が来られ、わたしたちを助けてくださいます。そして聖霊は神の御心に従って祈る方法をご存知です。」(ロマ8:26-27)

聖霊はどう祈るかご存じです。聖霊は神の国と神のみ旨をご存じです。そして主イエスは洗礼によってわたしたちの中に住むように聖霊を与えてくださったのです。聖霊はわたしたちにどう祈ったらいいか教えることができるのです。聖霊は、わたしたちがどのようにして天国に入るか知っておられるのです。聖霊はどのようにして天国を地上にもたすかご存じです。アレルヤ！これは本当に素晴らしいことです。

わたしたちが神を賛美し、礼拝するとき、イエスが、主の祈りで教えたように、天が開き始めるのです。聖霊ご自身がわたしたちの霊を引き上げてくださり、わたしたちは神の聖心に入り近づくことが出来るのです。それから聖霊と共に、わたしたちは父なる神と主イエスに「主よ、わたしたちが祈っているこの状況をどのようにご覧になっているのですか？この状況の中であなたは何をなさりたいのですか？わたしたちはどのようにすべきでしょうか？」と尋ねるのです。聖霊はわたしたちに神が望まれることは何かを明らかにし、とりなしにおいて一步一步わたしたちを導かれるのです。

・二つの質問

わたしたちが祈る時はいつでも、聖霊はわたしたちにたくさんの方法で、たとえば、聖書の御言葉、霊のビジョン、あるいは預言を通して語ることがお出来になるのです。これらのメッセージはいわゆる神からの啓示です。それはとりなしではありません。ときどき人々はこのようなメッセージを受けたとき、とりなしの祈りをしていると思うことがあります。しかしながら、それはとりなしの祈りと同じではありません。啓示はわたしたちに神の考え方、神がわたしたちと他の人に何をしてもらいたいのかをただ理解するための助けなのです。それで、わたしたちは神のメッセージを聞き、さらに聖霊に二つの質問をする必要があるのです。

1. これらの啓示は何を意味しますか？
2. 天を地にもたすために、この啓示によってわたしたちはどのように祈るべきでしょうか？

聖霊はわたしたちに神の啓示を理解させてくださるでしょう。聖霊はわたしたちが祈っている人々のため天を地にもたすために、どのように祈るか、さらなる啓示をわたしたちに与えることさえなさいます。聖霊、来てください！あなたをお招きいたします。アーメン。

C. 結びのとりなしの祈り

それからとりなしの集いの終わりに、結びのとりなしの祈りを唱えることができます。

父よ、わたしは天からのすべての約束と祝福を信じ受け取ります。それは、今日わたしたちがイエスの御名によって祈っている人びとすべてにあなたが与えになるものです。

次に、わたしたちの御母マリアと共に、お告げの時のマリア様の御言葉によって祈ります。わたしたちが祈っている人びとすべてのために、「お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ 1:38)

それからわたしたちが祈っているすべての人びとのために、「イエスに対するはい」を祈ります。わたしたちが「はい」と言うことによって、人々が神に対して「いいえ」と言ったすべての時を逆してくださるようお願いしましょう。神に対して「はい」という新しいすべての恵みを与えてくださり、また今、与えてくださっているすべての恵みを受け入れるよう、神に願いましょう。

「わたしの思いではなく、あなたの御心になりますように。」(ルカ 22:42)

(わたしたちは、神の平和へと入る霊的な自由の打ち破りを体験するまで、その言葉を声に出して繰り返しながら、イエスのことばを公式の布告として聖霊の力において宣言するのです。)

D. すべての栄光を神へ

最後に、神がなさったすべてのことのゆえに、今なされているすべてのことのゆえに、これからなさるすべてのことのゆえに、神にすべての栄光をお捧げします。

「栄光は、全能の神、あなたに、わたしたちのうちに働くその御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることがお出来になる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」(エフェ 3:21-22)

Ⅲ. 最終的なまとめ

新しいとりなしについてはいろいろなことが言えます。この小冊子には、新しいとりなしの祈りの集いで祈るときに、わたしたちを導くための二、三の実践的なポイントが書かれています。

要約すると、新しいとりなしとはわたしたちの主、イエス・キリストからの賜物と言えるでしょう。「主の祈り」というわたしたちに与えてくださったイエスの祈りは、新しいとりなしにおいてどのように祈るかという、重要な実践的なポイントを明らかにしています。

新しいとりなしには新しい考え方があります。わたしたち自身が何を受け取ることができるかということだけではなく、神と神の民に対しわたしたちは何を与えることができるか、ということを考えるのです。とりなしにおいてわたしたちは**神と共に働**いています。ですから、わたしたちの期待は神のように無限である必要があるのです。わたしたちは、自分の経験に基づいたものではなく、神の本性に基づいた奇跡を期待することができるのです。わたしたちはどんな答えを探し求めているかと言えば、神がなさりたいと望まれる創造的で新しいことなのです。なぜなら、わたしたちには創造的な神がおられるからです。アレルヤ！

新しいとりなしでは、二つのポイントからなる方法に従います。すなわちイエスと聖霊です。「わたしたちの父よ」という主の祈りで主イエスがわたしたちに与えてくださった方式に従うと、まず最初に神の御名を呼び求め、それから問題ではなく神を第一に置くのです。わたしたちが賛美と礼拝によって神を第一に置き続けるとき、聖霊はわたしたちが天国に入るのを助け、天の御父と主イエスの近くに行くのを助けてくれるのです。ここでは、主はわたしたちとわたしたちが祈っている人々にご自分のご計画とみ旨を明らかにしてください。それから、神の御国と御旨を天から地へともたらすように、神と結ばれて、わたしたちがどのように祈るか、聖霊が一步一步導いてくださいます。「天から地へ」は、新しいとりなしの**新しい方向**です。

わたしたちの祝された御母はカナの婚礼でこの新しいとりなしを大変上手に要約なさいました。「イエスのもとへ行き、彼の言われることは何でもしなさい。」(ヨハネ 2:5)

最後に、天におられるわたしたちの御父にすべてをお返しし、神にすべての栄光をお捧げして、わたしたちの**新しいとりなしの祈り**は終わります。

FBB の「**イエスの霊における新しいとりなし養成コース**」は、新しいとりなしの賜物についてさらにもっと深く学ぶ機会を提供しています。詳細についてはぜひわたしたちに連絡してください。そうです、**今やさらに深く進む時**です。アーメン！アレルヤ！

補 遺 A
聖書概説

補遺 B
とりなし者の奇跡の祈り

補 遺C
とりなし者の赦しの祈り

補 遺 A

聖書概説

I . 導入

- A . 新しいとりなしとは何か？
- B. 新しい考え方
- C. 神と共に働く (ルカ 1 : 37)

II. . 新しいとりなしにの祈り方

- A. イエス (ルカ 11:1-2、ヨハ 12 : 49、ロマ 8 : 15、
詩編 22 : 3)
- B. 聖霊
 - ・ 新しい方向
 - ・ 聖霊は祈り方を知っておられる (ロマ 8 : 26-27)
 - ・ 二つの質問
- C 結びのとりなしの祈り (ルカ 1 : 38、ルカ 22 : 42)
- D すべての栄光を神へ (エフェ 3 : 21-22)

III. 最終的なまとめ

(ヨハネ 2 : 5)

補 遺 B

とりなし者の奇跡の祈り

(わたしたちのイエスへの愛の奉献を刷新するために)

“希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。” (ローマ5:5)

“聖霊、来てください。聖霊、来てください。” 今このひと時、聖霊が来てください、今すぐ、わたしたちを神の聖なる愛とすべての神の賜物で満たしてくださいるように歌い、そして祈りましょう。

今、聖霊がわたしたちの心を神の聖なる愛でさらに満たしてくださいっているので、わたしたちはこの愛をわたしたちだけのために留めておくことができません。そこで、先ず、わたしたちはこの愛を天の御父にお返しするのです。全能の父は、ずっとわたしたちを心から愛してくださっています。わたしたちはこの御父の愛を特に主イエス・キリストのうちに見出すのです。それでは、わたしたちの天の御父への愛の奉献をご一緒に新たにしましょう。それから主イエスへのわたしたちの愛を新たにしましょう。祈りましょう。

“天のお父さん、わたしを心から愛してください、特にわたしたちの主イエス・キリストを通して愛して下さいありがとうございます。わたしもあなたを心から愛します。また、今日、あなたを愛さないすべての人びとのために、その償いとしてもあなたを愛します。”

わたしたちは、しばらく、ここを一つにして天の御父へ愛を込めて歌い、祈ります。そして、わたしたちは人びとの代わりに、特に、神を愛さない人びとの償いとして、その人びとの分まで、もっと御父を愛します。わたしたちは御父を愛さない人びとの償いとして、わたしたちの手の中にその方たちを包んで御父に掲げるのです。“アッバ、父よ、心からあなたを愛します”

今、わたしたちはここで共に主イエスへの愛の奉献を新たにしましょう。

祈りましょう。

“主イエスよ、わたしを全身全霊で愛してくださいありがとうございます。あなたはわたしのために尊い御血を流し、十字架上で死んでくださいました。ここから感謝します。あなたの聖なる十字架によってわたしのすべての罪を赦してくださいありがとうございます。”

“主イエスよ、今すぐ、わたしの心にもっと深く入ってください。あなたの聖なる愛と聖なる命でもっとわたしを満たしてください。どうか、わたしのすべての罪をお赦してください。特に、いつも“あなたの協力者”でなかったことをお赦してください。あなたが、わたしに何をしてもらいたいのか先ずあなたのもとに聴きに帰るべきでした。祈る時でさえそうでした。主イエスよ、わたしはあなたにここから従いたいです。主よ、わたしを癒してください。あなたの聖霊とあなたの聖なる愛で溢れるほど満たしてください。わたしの中にあなたの命が溢れますように。”

“聖霊、来てください。あなたの聖なる愛でもっと満たしてください。わたしが全生涯を通して主と一致していくことができますように。わたしの全生涯をあなたに委ねます。わたしの考え方も、わたしのやり方も、わたしの祈り方も、あなたに委ねます。わたしはこの世のやり方をすべて退けます。わたしはすべての罪を退けます。わたしはサタンとそのすべての悪と、そのすべての悪霊を退けます。”

“主イエスよ、わたしはあなたを選び取りました。わたしはあなたのなさり方を選び取りました。聖霊、来てください。わたしをあなたの聖なる愛でもっと満たしてください。イエスをわたしの全生涯の主としてください。わたしの祈りの主としてください。あなたのすべての賜物をわたしの中で解き放ってください。主イエスが人を愛したように、わたしも他の人びとを愛することが出来るよう助けてください。どう祈るべきか教えてください。イエスに従う者としてください。イエスに忠実な者としてください。そうすればわたしは神の家族の中で永遠に生きることが出来るのです。アーメン。”

しばらく、イエスに愛の歌を歌い、祈りをささげましょう。祈りながら、主イエスが復活の後、どのようにトマスに現れたかを思い起こしましょう。

イエスは言われました。“見よ、トマスよ。これがわたしの手と足とわき腹にある傷だ。指を差し入れなさい、もう疑わず、信じる者になりなさい。”

この同じイエスが、今ここに、わたしたちと共におられます。祈る時に、目を閉じ、トマスが見たように、イエスを見てください。指を伸ばし、その指を今ここにいるイエスの傷口に差し入れなさい。主は、愛と慈しみと、癒しと、奇跡を与えつつ、その尊い御血と水であなたを洗ってくださいるでしょう。それから、わたしたちの愛する人びとをイエスに向かって掲げましょう。その人びとをイエスの聖心の中に置きましょう。そうすれば、イエスの尊い御血と水が恵みと奇跡を与えつつ、彼らを洗ってくださいるでしょう。

さあ、歌い、そして、祈りましょう。

“尊いイエスよ、わたしはどれほどあなたを愛していることでしょう！” アーメン

補 遺 C

とりなし者の赦しの祈り (人々をイエスのもとへ解放するために)

(聖霊に導かれるままに、しばらく賛美と礼拝の祈りをとなえた後、主イエス・キリストと共に祈ります。)

わたしたちを傷つけた人たち、なすべきことをなさなかったり、今なお果たしていない人たち、神の望まれることを果たしていない人々のために……

父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているか知らないからです。

罪の中にいる人たちのために……父よ、彼らに罪を負わせないでください。わたしはイエスの御名によって彼らを赦し、彼らを自由にすることを選びます。

父よ、たとえ真実であろうと否定的なことを繰り返すことによって、特に、彼らを罪の絆に閉じ込めてしまったわたしの言葉、思い、感じ方、行為を赦してください。

イエス・キリストの心と思いをわたしにお与えください。
主イエスよ、あなたのまなざしで彼らを見るように助けてください。

聖霊よ、どのように祈ったらいいかを教えてください。アーメン

(この祈りの後、その人をイエスに献げ、聖心の中に置きます。それから聖霊が、どのように考え、彼らのために祈ればいいのか教えてくださるまで、あるいは、彼らのために感じる心の重荷が取り除かれ、彼らへの神の愛と平和を体験するまで、主をほめ歌い、イエスの聖名を願い求め、聖霊のうちに祈り続けます。)

このとりなしの祈りの間、神のなさった御業のゆえに、神をほめたたえ、賛美して終わります)。

鹿児島司教認可

